

RFMD ニュース

会社連絡先:
RF Micro Devices Inc.
Irma Swain, Communications Manager
7628 Thorndike Road
Greensboro, NC 27409-9421, USA
電話: +1 (336) 931-6653
iswain@rfmd.com



rfmd.com

RFMD 社、3G 送信システムの販売を開始

スペイン／バルセロナ、2008 年 2 月 19 日：高性能な無線システム／ソリューションの設計、製造で世界をリードする RFMD 社(ナスダック GS: RFMD)は本日、マルチバンド、マルチモード 3G 携帯電話端末やモバイルプラットフォームへの実装を簡単にし、短期間の開発を可能にする 3G マルチモードソリューションの 3G 送信システム RF6280 を一般市場で販売開始したと発表した。

RFMD 社の 3G 送信システム RF6280 は WCDMA の主要な周波数帯すべてに対応しており、パワーアンプ RF6281／RF6285 のいずれか一方または両方と組み合わせて使われるフロントエンド出力管理 IC。RF6281 はシングルバンド(バンド I)専用のパワーアンプ・モジュールで、RF6285 は柔軟な構成のマルチバンド PA モジュール(バンド I、II、III、IV、V、VI、VIII、IX に対応可能)。この 3G 送信システムを中心に位置するのが RF6280 フロントエンド出力管理 IC で、低雑音・高効率の DC/DC コンバータとハードウェア制御アルゴリズムが組み込まれたこの IC が、クラス最高の効率と拡張機能、使い勝手の向上を実現する。

RF6280 にはアナログバイアス制御と特許申請中の DC/DC コンバータ技術が使われており、PA の動作条件に対する動的インテリジェント制御が可能。RF6280 はモード毎に効率と直線性を最適化できるだけでなく、あらゆる出力レベル、データレート(音声専用から HSPA まで)、理想的でない負荷(アンテナ不整合)といった条件下で最大の効率が得られる。そのため端末メーカーにとって特に重要な指標となる電池寿命の長時間化と平均熱消費の大幅な低減に役立つ。

デュアルバンド対応 RF6285 の広帯域特性を生かした 3G 送信システムではマルチモード、多地域対応 3G プラットフォームの実装が大幅に単純化される。また、この 3G 送信システムはバランスタイプ(直交位相)のパワーアンプ構成を用いて総輻射電力(TRP)や電磁波吸収率(SAR)を改善しており、高価な RF アイソレータが不要になるためマルチバンド対応プラットフォームの実装が単純化される。

「当社の 3G 送信システム RF6280 は WCDMA パワーアンプの最大のメーカーという当社の地位をさらに強固にするもので、また業界最高レベルの革新的な製品を市場に供給できる当社の能力を示す製品です。当社の 3G 送信システム RF6280 を使えば、フィルタ部品を変更するだけで複数の WCDMA 帯域に柔軟に対応可能な単一のプラットフォームを設計できます。端末基板上の RF 系のレイアウトを変更する必要はありません。」と RFMD 社のコンポーネントソリューション事業部長ポール・オーガステインは語る。

RF6280 送信システムはコンパクトな設計で、フィルタやフロントエンド出力管理回路も含め他社のソリューションより大幅にスペースが節約可能な 3 バンド WCDMA ソリューション。TRP や SAR が改善されクラス最高の効率が得られることから、この 3G 送信システム RF6280 は経済性に優れ、効率がが高く、柔軟な設計の可能な WCDMA プラットフォームを求める端末メーカーにとって極めて魅力的なソリューションとなる。

RFMD 社は WCDMA フロントエンドの業界リーダーで、また不整合アンテナに対する供給電力の変動を抑えた TRP 適合 3G マルチモードフロントエンドでも業界をリードしている。

総輻射電力 (TRP) とは、携帯端末が送信可能な放射電力を示す性能上の尺度で、TRP は PA 出力電力、アンテナ輻射効率、およびアンテナ不整合に対する PA の感度の関数となる。アンテナの不整合はあらゆる端末で発生するが、マルチバンド端末では 1 本のアンテナがカバーする帯域が増えるためより顕著に現れる。不整合なアンテナが原因で端末の出力が所定の出力レベルに達せず、呼が切断される場合があるだけでなく、逆に所定の出力レベルを超えてしまい通話時間が短くなったり、呼の品質低下やデータレートの低下が発生したりする場合もある。TRP を改善することにより、呼接続の失敗頻度が減ると同時にネットワークの覆域や効率、データのスループットが向上する。

RF6280、RF6281、RF6285 の各デバイスはいずれも有害物質の使用制限 (RoHS) に適合しており、また現在製品サンプルを提供中。3G 送信システム RF6280 の単価は 10,000 個ベースで \$5.00 となっている。

RFMD 社について: RF マイクロデバイセス社 (NASDAQ GS RFMD) は、無線通信／ブロードバンド通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム／ソリューションを設計、製造する業界リーダー。RFMD 社の携帯電話用フロントエンド、携帯電話用トランシーバ、システムオンチップ (SOC) ソリューションは携帯端末、携帯電話基地局、無線 LAN (WLAN)、CATV ネットワーク、航空宇宙、防衛、GPS 等の市場で活用され、その最先端の機能をサポートして通信能力を強化し、世界全体のモビリティを向上させている。幅広い分野の最新半導体技術と RF システムの専門技術で知られる RFMD 社は、移動通信機器や RF システムを手がける世界中の一流メーカーから最も信頼されている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置く RFMD 社は ISO 9001 および ISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD 社は RFMD 銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報は RFMD 社のホームページ、www.rfmd.com に紹介されている。

このプレスリリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act) がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした

内容とは実質的に異なる場合があります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確実性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確実性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES®、RFMD®、PowerStar®、POLARIS™ TOTAL RADIO™は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。